

# 高松盆栽の伝統をつなぐ！ ～高校生と共に次世代へ～

代表者 大井 香穂（経済学部経済学科2年）

## 1. 目的と概要

現在、海外において日本の文化や伝統工芸は『Cool Japan』と高く評価されており、盆栽も『BONSAI』の表記で海外からの人気が高まっている。

その一方で、香川県高松市は松盆栽の全国シェアの約8割を占める名産地であるにも関わらず、国内における高松盆栽の知名度は低く、若い世代には親しみが無い。また、後継者不足という問題を抱えているのが現状である。

これらの背景には、一般的に盆栽に対して抱かれる「男性」・「高齢者」・「高価」のような親しみにくいイメージが影響しているものと考えられる。

そこで、これら3つの盆栽に対する世間のイメージとは正反対である私たち女子大生が、プロの盆栽作家と盆栽に興味を持つ初心者を繋ぐ架け橋のような存在となり、高松盆栽の認知度向上を目指すことを目的として活動している。この目標を達成するために、今年度は、岡山県を中心に香川県外の高校生をメインターゲットとした、苔玉作りワークショップを開催した。



## 2. 実施期間（実施日）

令和5年6月28日から 令和6年3月31日まで

## 3. 成果の内容及びその分析・評価等

今年度の事業では、岡山県を中心に香川県外の高校生をターゲットとした苔玉作りワークショップを行った。計8回のワークショップを実施し、総参加者は169名となった。高校生向けのワークショップでは、普段の活動で行っている苔玉作り体験に加えて、香川大学について高校生に理解を深めてもらうために、香川大学の説明や学生プロジェクトの紹介、大学生活や受験のアドバイスなどを行う時間を設けた。このことにより、高松盆栽だけでなく香川大学の魅力も伝えられる機会にもなったと考えられる。高校生向けワークショップの内容としては、高松盆栽や私たち Bonsai☆Girls Project の活動についての説

明、苔玉作り体験、香川大学やプロジェクトの紹介、高校生と大学生との交流会である。交流会では座談会形式で質疑応答を行うことで、高校生からの大学や受験に関する多くの疑問に答えることができた。以下、計8回について、各回の活動を具体的に示す。

1回目は、8月26日に岡山県立岡山芳泉高等学校で開催した。参加者は生徒13名、教員1名の計14名であった。苔玉作りでは一人ひとりの進行状況に合わせてスムーズに進めることができた。経済学部のパンフレットから興味をもってくれた参加者がいて、どのようなことを学んでいるかなど詳しくお話する座談会を開催できた。経費の申請が直前になってしまったため、メンバー内での情報共有と手順確認をしっかりとしておく必要があることを学んだ。



2回目は、9月23日に同じく岡山県立岡山芳泉高等学校で開催した。参加人数が多かったことから2回に分けて開催した。参加者は21名で、志望大学が決まっていなかった高校1、2年生や香川大学のプロジェクト活動に興味を持ってきている参加者が多かったことから、香川大学の特徴や魅力を知ってもらう良い機会になった。事前に担当箇所を決めて積極的に苔玉作りのサポートができたことから予定通りに終わることができた。



3回目は、10月23日に徳島県立脇町高等学校で開催した。参加者は生徒7名、教員7名、計14名であった。参加者が少数であっただけでなく、タイムスケジュールを細かく組んでいたことから、準備や片づけを含めスムーズに進めることができた。香川大学志望の高校生も多く、またメンバーの母校であることから、ワークショップ終了後も高校生からの質問が多数寄せられ、交流の場が弾んだのが印象的である。



4回目は、12月12日に岡山県立岡山南高等学校で開催した。参加者は32名と多かったため、グループ分けをしてメンバーの配置を分担することで対応した。商業科の生徒が多かったことから、普通科だけでなく商業科の生徒の受験相談にもものれるよう予備知識を持っておく必要があると実感した。



5回目は、12月19日に岡山県立津山商業高等学校で開催した。参加者は、37名であった。参加人数が多かったが、分担して手の空いたメンバーは片付けに回るなど臨機応変に動けたため時間通りスムーズに終わることができた。商業高校ということから、商業科出身のメンバーを当日メンバーとして配置していたこと



ことから、質問や相談にも対応できた。反省点としては、備品の忘れ物があったので、ワークショップに行く前にチェックリストの確認を徹底するようにメンバー間で共有した。

6回目は、12月25日に岡山県立倉敷古城池高等学校で開催した。参加者は15名であった。苔玉作り体験では、樹種に関する質問や育て方について積極的に質問していただいたことから盆栽に興味をもった参加者も多かったと感じる。ワークショップ後の座談会では参加者の質問に受け答えするだけになってしまったため、こちらからも話題を提供できるように準備することが必要だと感じたワークショップとなった。



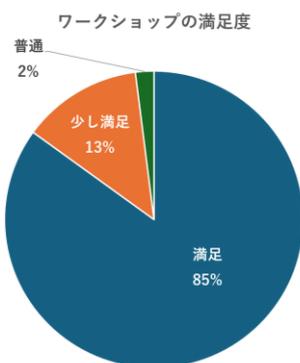
7回目は、12月26日に岡山県立総社南高等学校で開催した。参加者は12名で少人数だったことから、苔玉作りでは一人ひとりの進行状況に合わせてスムーズに終わることができたが、一方で全体の進行を見る意識が欠けていたと感じた。積極的に参加者のサポートに入ることは重要だが個人の進行状況にとらわれすぎないことも重要だと反省した。



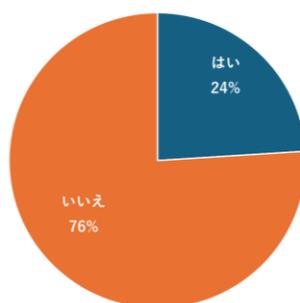
8回目は、1月29日に岡山県立玉野光南高等学校で開催した。参加者は、生徒17名、教員6名、計23名であった。参加者からは「盆栽を身近に感じることができた」や「盆栽の良さに気づいた」などの感想が寄せられ、盆栽に興味を持っていただけたと実感できた。ワークショップの時間が少し長くなり座談会の時間が少し短くなった点と、参加者に高校1年生が多かったことから交流会での話題作りが難しかった点が反省点である。



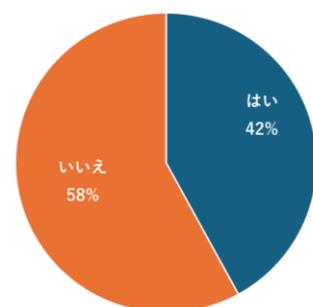
### 【アンケート結果】



問.BGPを知っていたか。



問.鬼無・国分寺が有名な盆栽の生産地であることを知っていたか。



以上の事業により、私たちがターゲットにしている高校生などの若者を中心に多くの方が盆栽に触れる機会を創出できたと考える。また、今年度は県外の高校生を対象にしたことから活動の範囲が広がった。アンケート結果からは、参加者の満足度は高い一方で、高松盆栽や私たち Bonsai☆Girls Project の認知度は全体の半分にも満たなかったことがわかった。今後も事業を継続することで盆栽の魅力を伝える機会を創出し、高松盆栽や Bonsai☆Girls Project の認知度向上だけでなく、地域の方とのつながりを大切にしていきたい。

#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

この事業を実施したことにより、高松盆栽の認知度だけでなく、香川大学や Bonsai ☆ Girls Project の認知度も向上させることができたと感じる。今年度は、県外の高校生を対象にワークショップを実施したことから、県外の高校生に高松盆栽の存在を知ってもらう機会となった。高校生向けワークショップでは、苔玉作りの他に香川大学の紹介や他の学生プロジェクトの紹介なども行った。大学受験を控える高校生に向けて香川大学の魅力や香川大学ならではのプロジェクト活動について知るきっかけを創出することができたと感じている。また、自身の SNS での情報発信や地元インターネットメディアである「ガーカガワ」による取材、地元タウン誌「NICETOWN」での毎月連載等を通じて、高松盆栽や香川大学の学生プロジェクトの魅力を PR することができた。

地域社会に与えた影響としては、香川の名産品である高松盆栽を通じて、鬼無や国分寺地区といった地域の活性化に貢献することができたと考える。次世代に盆栽の魅力を発信することで、冒頭に述べたような盆栽業界の課題解決にもつながると考える。また、定期的な盆栽教室やワークショップの開催により、地元の盆栽作家や企業、学校等とのつながりを持つことができた。さらに、プロジェクト活動を通して、私たち学生も責任感や協調性など社会に出て役立つ能力を培うことができたと感じる。

#### 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

今年度で開催したワークショップは、昨年度に引き続き、高校生を対象としたものであった。高校生向けのワークショップはこれまでの活動で行っていたことから、従来のワークショップとは異なる要素を取り入れようとメンバーで意見を出し合った。そして、香川県外の高校でワークショップを行うことで、活動範囲が広がったことを実感した。また、普段のワークショップではあまり気づくことができない、香川県外に在住している方々の香川県に対するイメージというものを知ることができ、様々な視点から物事を考えることの重要性を学んだ。そして、それが魅力を発信する能力や企画力につながったのではないかと考える。また、様々な学部に対応できる香川大学の紹介や大学生活についてのプレゼンテーションなどを実施し、参加者から高い評価を得ることができた。マニュアル化した活動のなかに新たな要素を加えることで、より主体性や発想力が身に付いたと考える。ワークショップ後には必ず振り返りを行い、反省点や課題を見出してプロジェクト内で解決策を模索し、その後のワークショップに生かした。また、高校の教職員の方々との交流を通して、礼儀作法やマナーについても学ぶことができた。

#### 6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

反省点は大きく3つある。まず、苔玉のつくり方の説明や指示出しが曖昧になっていた点である。私たちは、プロの盆栽作家の方から盆栽に関する知識を教わり、実際に苔玉作りを行う盆栽教室を行っているが、今年度は頻度が少なかったことが原因と考えられる。来年度は、盆栽教室の頻度を増やし、つくり方の再度確認を行うだけでなく、メンバー間でもワークショップ前につくり方の説明の練習をするなどして改善していきたいと思う。

次に、高校生向けワークショップ内の大学紹介に関する反省である。Bonsai☆Girls Projectには経済学部所属のメンバーが多いため、経済学部を中心に紹介をしていたが、今年度は、経済学部以外のメンバーも増えたことから学部ごとの授業の内容や大学生活についても紹介するように工夫した。しかし、他学部のことに関して高校生から質問されると分からない場面もあったため、前もって参加する高校生の志望学部を聞くなどして対応できるように準備することが必要だと感じた。また、メンバー構成についても様々な学部のメンバーが必要だと感じたので次の新入生の勧誘にも力を入れたいと思う。

最後に、材料費の値上げによる対応が円滑に行えなかった点である。苔玉の個数変更や交通費の再検討により対応にあたったが、メンバーとの情報共有や確認が遅れてしまい、発注先に何度か見積書を書き換えてもらうなどご迷惑をおかけしてしまった。ワークショップに限らず、プロジェクト内での情報共有と確認作業を徹底し、強い責任感を持って活動していきたいと思う。

一方で、今年度、実際にワークショップを行った高校、ならびに開催することができなかった高校も含め、お声がけした多くの高校から、来年度の開催にも期待していると声をかけていただいた。これらの反省点を踏まえて、今後は既存のワークショップに新しい要素を加えながら、来年度はより質の高いワークショップを実現できるよう、メンバーで案を出し合い、さらに改善を重ねていきたいと思う。

## 7. 実施メンバー

代表者	大井 香穂 (経済学部 2年)		
構成員	岡本 奈々 (経済学部 4年)	梶川 瑠璃 (経済学部 4年)	
	永野 由 (経済学部 4年)	植田 菜月 (経済学部 3年)	
	應江 あかり (経済学部 3年)	香川 夏実 (経済学部 3年)	
	川原 つかさ (経済学部 3年)	河原 由衣 (経済学部 3年)	
	桑原 優月 (経済学部 3年)	美馬 妃華 (経済学部 3年)	
	森前 ひなた (経済学部 3年)	渡部 里梨花 (経済学部 3年)	
	竹本 理世 (経済学部 2年)	嶋津 千咲 (創造工学部 2年)	
	芦内 奈菜 (経済学部 1年)	井内 清楓 (経済学部 1年)	
	池井 あずさ (経済学部 1年)	伊丹 礼 (経済学部 1年)	
	木元 さくら (経済学部 1年)	妹尾 萌花 (経済学部 1年)	
	西崎 玲音 (経済学部 1年)	森本 美咲 (経済学部 1年)	
	猪谷 蒼月 (法学部 1年)	岡嶋 羽菜 (創造工学部 1年)	
	三好 菜月 (創造工学部 1年)		

## 8. 執行経費内訳書

配分予算額		288,900円		
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考
苔玉材料(8月26日分)	15	1,650	24,750	
苔玉材料(9月21日分)	21	1,650	34,650	
苔玉材料(10月23日分)	14	1,650	23,100	
苔玉材料(12月12日分)	32	1,650	52,800	
苔玉材料(12月19日分)	37	1,650	61,050	
苔玉材料(12月26日分)	12	1,650	19,800	
苔玉材料(12月25日分)	15	1,650	24,750	
苔玉材料(1月29日分)	3	2,200	6,600	
ETC通行料金(5・6月分)			3,720	
ETC通行料金(8・9月分)			5,820	
ETC通行料金(8・9月分)			820	
ETC通行料金(12・1月分)			5,820	
交通費(8月26日分)	2	3,080	6,160	
交通費(8月26日分)	1	3,980	3,980	
交通費(12月12日分)	4	3,605	14,420	
合計			288,240	